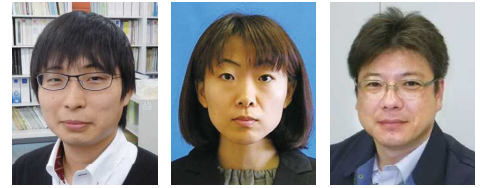


交通安全対策をより効果的・効率的にするための知の共有



道路研究部

道路空間高度化研究室 研究員 木村 泰 主任研究官(博士(工学)) 大橋 幸子 室長 藪 雅行

(キーワード) 交通安全対策、人的事故要因、速度抑制施設

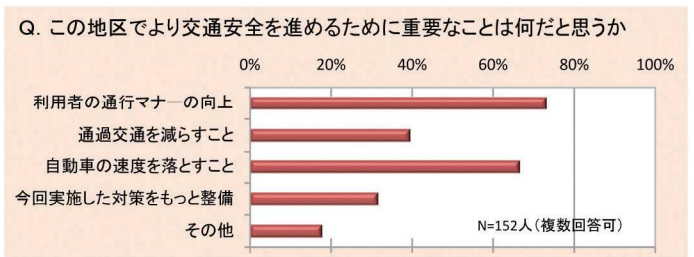
1. はじめに

道路交通安全問題である交通事故は、人・道・車の3要素のもとで発生しており、その対策も人・道・車の観点から実施される。しかし、「道」の観点から交通安全対策を実施しても、「人」による安全な利用がなされなければ、その効果は十分に発揮されない。加えて、そもそも対策の目的が道路利用者に理解されなければ、対策実施への理解も得難い。

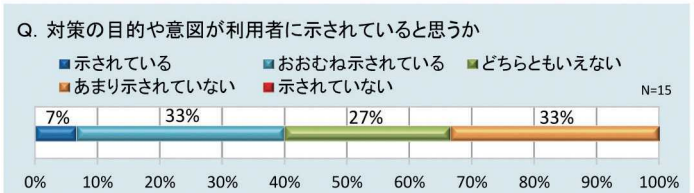
そこで、交通安全対策をより効果的・効率的に実施するため、交通安全対策の目的や安全な道路の利用方法等の「知」を道路利用者が共有することを目指した研究を行っており、本稿ではその試みを紹介する。

2. 交通安全対策と道路利用者の通行マナー

幹線道路などの幅員の広い道路の交通安全対策には、歩道や防護柵の設置などにより直接的に自動車と歩行者を分離する対策がある一方、生活道路などでは、幅員が狭く実施できる対策も限られているため、「道」の側面から速度を抑制することや、道路利用者の意識の向上が交通安全上の大きな要素となる。今回、生活道路の交通安全対策を実施したつくば市内の1地区において「この地区でより交通安全を進めるために重要なこと」についてアンケートを行ったところ、「自動車の速度を落とすこと」と併せ「利用者の通行マナーの向上」を指摘する回答が多く見られた(図(a)参照)。また、交通安全対策に対する道路利用者の認識として、「対策の目的を示すことで利用者の安全な走行に効果があると思うか」という問については、「思う」「やや思う」とする回答が9割以上であることに対し(図(b)上)、「対策の目的や意図が利用者に示されていると思うか」という問については、「示されている」「おおむね示されている」とする回答



(a)交通安全を進めるために重要なこと



(b)交通安全対策の目的

図 地域住民へのアンケート結果

は4割にとどまっており(図(b)下)、対策の目的や意図を道路利用者に伝えることが安全な道路利用に有益だと考えられた。

以上を踏まえ、地区内などの生活道路における交通安全対策を主な対象として、対策内容の目的、道路利用者の不注意等によって引き起こされる危険・交通事故例やこれらの場面を回避するための安全な道路の利用方法等の「知」を整理し、道路利用者にわかりやすく伝えるための資料を作成している。

今後、実際に交通安全対策が整備される地域において、「知」の共有による効果を把握・検証するとともに、交通事故削減に向けた方策の一つ(交通事故回避のための道路利用者とのコミュニケーション手法・ツール)として提案することを予定している。